



広島県立大柿高等学校の困りごと

-
- 先端技術接触機会
- 学校外の教師不足
- 部活動指導者不足

広島県立大柿高等学校
広島県江田島市大柿町

島唯一の高校。少子化の影響を受け廃校の危機にある。平成 31 年 4 月に 40 人の新入生を迎え全校生徒数は 92 人。教育環境の向上や地域との連携など、生徒の満足度を高める取り組みを多方面で検討し、トライしている。島の中学生に確実に選ばれる学校となることが目標。

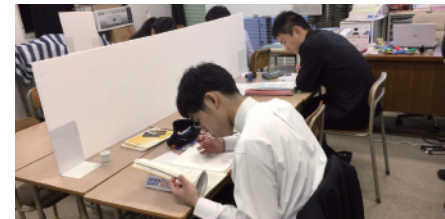
広島県立大柿高校の困りごと

広島県立大柿高等学校
広島県江田島市大柿町



幅広い分野に触れる機会

島という不便な立地であっても、教育の機会や質を確保し、生徒が満足する環境を整えたい。先端技術や文化芸術、大学生との交流などができれば、視野が広がり学びや進学に対する意識も高まると思われるが、どう実現すればいいのかわからない。



学校外の教師不足

公営塾「おおき暁塾」で生徒の学びをサポートしているが、学力レベルは生徒それぞれ。個々への対応が必要だが、教える先生の数が足りていない。また、主要教科以外にも生徒がチャレンジしたい事を教える人材が少ない。

部活動の部員不足

生徒数が増えたことにより、クラブ活動が活発化しつつある。せっかく盛り上がってきたクラブ活動であるため、先生が離れていても生徒を見守れたり指導できる仕組みなど、生徒が満足できる指導体制を強化し、もっと部員を増やしたい。



生徒と校長

江田島市唯一の大柿高校。自然環境が豊かな一方で、新しいことに触れる機会が少なく、生徒達が「島だからできない」というイメージを抱きがちです。小さな高校であることを活かして新しいこともフットワーク軽く取り入れていきたいと考えています！

他の課題 | 高校の魅力 PR/ 国際交流 / …